

I29-35 混合微生物生菌剤を添加して長期間保存したビートトップのヒツジでの飼料価値

○西田 武弘¹・阿佐 玲奈¹・森保 真¹・松本 哲朗¹・洪 再発²・伊東 宏明³・境田 一郎⁴・高橋 潤一¹

¹帯畜大家畜衛生・²日本仁安堂薬鍵・³丸紅(株)・⁴タイセイ飼料(株)

nishtake@obihiro.ac.jp

【目的】北海道十勝の代表的輪作作物であるビートの残滓であるビートトップは、未利用の農産物草本系バイオマスとして豊富に賦存する。金子らは、第111回日畜学会においてビートトップに混合微生物生菌剤(BMES)を添加し、トランスバグに簡易的に密封することによって、好気的変敗を起こすことなく長期間保存可能であることを示した。そこで本研究では、このビートトップを飼料としてヒツジに給与し、その飼料価値を求めた。【方法】試験には去勢ヒツジ4頭を用い、試験区はチモシー乾草のみを給与する対照区、およびチモシーとBMES添加処理貯蔵後10ヵ月目のビートトップとを乾物比1:1で混合給与するビート区とした。馴致期1週間、本試験6日を1期としたクロスオーバー法によって、本試験期には5日間の全糞採取法による消化試験と1日間の呼吸試験を行った。【成績】1)ビートトップの嗜好性は高く、残飼は観察されなかった。2)対照区とビート区では、乾物摂取量、一般成分消化率、可消化養分総量や可消化エネルギー摂取量には有意な差はなかった。3)ビートトップのタンパク含量はチモシーよりも高かったため、対照区に比較してビート区では窒素摂取量および可消化窒素摂取量は有意に高かった。